

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/30

団体名	NPO法人 mia forza	活動タイトル	子どもの声を聴くひとり親世帯への食糧支援（フードパントリー）	
<p align="center"><b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b></p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>	
<p><b>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</b></p>	<p>「困難な状況にある女性と子どもを支え・応援することを通して、地域や社会において女性と子どもが直面している課題を解決するとともに、誰もが安心して個々の幸せを追求し実現できる社会」（当法人定款第3条）                      具体的には、                      ①自分ひとりではないと感じられる社会                      ②養育者である大人が安定・自立し地域とつながっている社会                      ③多様な選択肢があり自分で未来を選択できる社会                      ④暴力のない安心で安全な社会</p>			
<p><b>●団体の社会的役割(ミッション)</b></p>	<p>(1) 女性や子どもへの直接支援事業「fonto（フォント）事業」                      ①子どもの居場所の提供、②シングルマザーの語り合いの場の提供、③暴力被害女性の語り合いの場の提供、④女性や子どものためのシェルターの運営、⑤女性のための相談対応、⑥女性や子どものための食糧支援、⑦上記のほか、困難な状況にある女性と子どもの状況改善をめざす活動                      (2) 女性や子どもを支える人材およびハラスメント対応者の養成研修の実施と、その教材の開発・販売など、人材育成事業「grava（グラヴァ）事業」                      (3) 女性や子どものための支援活動を行う団体や、その活動者のためのハラスメント相談窓口の運営など、相談対応事業「kunigi（クニギ）事業」                      (4) 前各号の活動を通じた社会の課題解決に資する調査事業                      (5) 前各号の活動を通じた社会の課題解決に向けたしくみづくり事業                      (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業</p>	<p>地場の旬の食材をお届けすることで、家計応援にとどまらない効果が！「子どもと会話が増えました」「子どもと一緒に調理をしたら、楽しくて美味しい夕食が出来ました」等の声が殺到。                      親子関係が深まった・改善したという家庭も！                      写真は2023年春のせり鍋セット。</p>		
<p><b>●団体の活動基盤</b></p>	<p>●望ましい人的資源：                      以下の専門性のあるボランティアスタッフの稼働時間の確保                      ・会計事務                      ・フードパントリー運営支援物資調達                      ・同行支援                      ・相談対応                      ・報告書や会報の編集制作                      ・ホームページ制作                      ・ファンドレイザー、寄付集め                      ●望ましい物的資源・</p>			
<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p>			<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b></p>	
<p>地場の旬の食材やひとり親家庭のニーズに合わせた食材・生活用品を毎月届け、家計困窮や精神的な行き詰まり感の緩和を目指しました。品物の提供を行いながら、毎月40世帯（当初予定をしていた20世帯の倍）にアンケートや個別面談・グループ面談へ協力していただき、ひとり親世帯の実態把握に努めました。また、アンケートや面談を通して構築した信頼関係を基に、ひとり親自身の社会参加・貢献やエンパワメントのひとつとして、ボランティア研修受講を経て、食糧提供事業のボランティアスタッフとして活躍していただいた。活動参加後必ず感想を寄せてもらいましたが、回を重ねるごとにステイグマから離れ、自己肯定感が高まっていったようです。同時に、子育てや人間関係への余裕や自信が出てきた方、仕事への積極性が高まった方もあり、これまで躊躇してきた正社員への挑戦や転職等に踏み出した方もありました。本事業で得たひとり親のニーズとウォンツを分析し、地域リソースに照らし合わせ、足りない仕組みを今後の新規事業として経過を立てた（9月より開始する新規事業：女性の居場所・ひとり親の語り合いの場・DV経験者の語り合いの場・小中学校内の相談室）認定NPO法人取得に向けたガバナンス等の整備に専門家の力を借りて取り組みました。</p>			<p>●本事業から得たひとり親のニーズとウォンツを地域リソースに照らし合わせ、地域・他団体・教育機関・自治体の連携で新規事業を2024年秋から開始することにしました。2024年8月時点で、新規事業4事業の計画・人員配置・事業費の調達を完了。同年9月からの事業開始に向けて、担当者育成を開始しました。                      ●本事業から得たひとり親世帯のデータを仙台市へ提出し、市長及び関係局局長へひとり親の状況・直面している課題・中長期的支援の具体的な提案・それら支援を支える資金調達についての提言をおこないました。                      認定NPO法人取得に向け、専門家より指導を受けながら、ガバナンスの整備を進めることができました。</p>	
<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p>			<p align="center"><b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b></p>	
<p>調査設計と分析についての手法を、複数のメンバーが身に付けることができました。また、ひとり親世帯が安心して暮らせるためのサポートや仕組みについて、調査データをもとに、ひとり親の方の意見を取り入れながら、今後の事業を計画することができました。さらには、当事者が支援者へ移行する際に必要となる力をどのように培っていくのか、その際に必要となるサポートについて、本事業を通して法人の各事業リーダーと本事業担当者は理解を深め、2024年秋以降の事業の立案に活かすことができている。</p>			<p>官民といった立場や組織を超えた連携。特に、地域と教育機関・自治体・NPOの連携。さまざまな角度・視点からの情報発信とひとり親家庭へのアプローチ等。</p>	
<p><b>この1年間の活動を通じて</b></p>			<p>ひとり親家庭の親と子の声を聞き続け、エンパワメントのお手伝いを継続して行うこと</p>	<p align="center">を達成しました。</p>
<p align="center"><b>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</b></p>			<p>周囲から支えられる存在から、他者や子ども、そして地域を支える存在へと変化がありました。</p>	